

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録 ハワイ、パールハーバーの追悼施設「アリゾナ記念館」を訪問
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 114, No. 3, pp. 28-29
Citation(English)	INVENTION, Vol. 114, No. 3, pp. 28-29
発行日 / Pub. date	2017, 3



知財見聞録

ハワイ、パールハーバーの追悼施設「アリゾナ記念館」を訪問

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

米国大統領、広島を訪問

昨年(2016年)の5月27日、バラク・オバマ大統領が、現職の米国大統領として初めて被爆地・広島を訪問し、平和記念公園において戦没者を追悼して、「核兵器なき世界」への決意を改めて強調した。

私は、このニュースを聞いて大変な感銘を受けた。唯一の原爆使用国である米国の現職大統領が広島を訪問することは、これまでの感覚からすればあり得なかったであろう。既に70年もの長い期間が過ぎたとはいえ、国家元首の被爆地訪問を実現するためには大変なエネルギーが必要だったと思う。多くの方々の力が働いた結果であろう。

この訪問は外交上の大きな成果であるが、同時に広島原爆の調査をライフワークとした森重昭氏の活動も大きく影響したようだ。また、2009年にノーベル平和賞を受賞したオバマ大統領ゆえに成し遂げることができたのであろう。素晴らしい感動の場面を見せていただいた。

恨みを超え、謝罪の言葉はいらない

一般論からすれば、被害者側は加害者側に対して恨みをもち続けるものと思われる。これが、血に血を塗る戦争の繰り返しにつながるのであろう。少なくとも14万人が亡くなったといわれる広島への原爆投下の被害者側は、当然に米国に対して強い恨みをもち続

けていることと思う。

しかしながら、新聞報道では、「オバマ大統領から謝罪の言葉はいらない」という発言を目にする。戦後に生まれた世代の人間には、戦争の現実を踏まえた発想で心中を共有することはできないが、世界で頻発している紛争の実態から考えると、日本という国は特別なのであろうか。

5月のテレビ報道を見ていて、一方で、日本人は、日米開戦の地となった米国ハワイ州のパールハーバーを追悼に訪れているのだろうかとの疑問が浮かんできた。これまで、筆者もハワイには何度か出かけているものの、パールハーバーまで足を延ばすことができていなかった。昨年9月にハワイを訪れた時、ぜひとの想いに駆られ、短時間ではあったが、パールハーバーを訪問してきた。



パールハーバー・ヒストリック・サイトの入り口



戦艦ミズーリ記念館

アリゾナ記念館

パールハーバー・ヒストリック・サイトの入り口に着くと、サイト内は、アリゾナ記念館(慰霊碑)、潜水艦ボフィン、戦艦ミズーリ、太平洋航空博物館等、行き先によってボートまたはバスで移動する広い記念公園になっていた。1~2時間ではとても全てを回ることにはできないため、入り口にいた案内係のおすすめにより、アリゾナ記念館を訪問することとした。

ボートへの乗船までの待ち時間に、Road to War(戦争への道)とAttack(アタック)の二つに分かれた博物館で当時の様子を振り返ることができる。ボートは、海底に沈んだ戦艦アリゾナの上に建てられたアリゾナ記念館まで運んでくれる。

1941年12月7日、日本軍による真珠湾攻撃で亡くなった約2400人に及



Road to War博物館の前に立つ平和を象徴する記念碑

ぶ米国軍人のうちアリゾナ乗組員は1177人であり、パールハーバーで大半の命が奪われた場所が戦艦アリゾナである。アリゾナ記念館の奥の部屋には真珠湾攻撃により亡くなられた乗組員全員の名前が刻まれた壁がある。厳粛な思いで戦没者の名前に向かって両手を合わせて祈ってきた。

再びボートでサイト入り口の案内所に戻ると、道なりに祈りの広場がある。そこには戦没者の名前が刻まれた石碑が円形状に並んでいる。何となく当時の軍人たちの叫び声が聞こえてくるような気がする。

年末には、安倍首相がパールハーバーへ

筆者がパールハーバーを訪問した後、年末になって、安倍晋三首相が、日本の現職首相として初めて、米国側

2400人、日本側60人の犠牲者の慰霊のためにアリゾナ記念館を訪問するという報道を聞いた。

筆者としては、偶然とはいえ、両国首脳による慰霊の旅の合間に時宜になった追悼の機会を得ることができたと感じた。また、オバマ大統領の広島訪問をきっかけとして日本からも安倍首相がパールハーバーを訪問することとなり、一連の日米間での絆の象徴となったイベントを大変うれしく思った次第である。

一年を通じて多くの日本人がワイキキの海岸でリゾートを楽しんでいるものの、そのほとんどの人はパールハーバーを訪問した経験を持たない。現に、筆者が今回訪問した時も、パールハーバーでは日本人の姿を全く見かけなかった。

今回の両首脳の訪問をきっかけとし

て、過去の現実を正しく理解し、今なお人々が持ち続ける相互の苦悩を共有し、そして、二度と戦争を繰り返さないためにも、ぜひ、多くの日本人に、ワイキキに行く際にはパールハーバーを訪問してほしいと思う。

世界平和への祈り

被爆者を抱きしめるオバマ大統領の姿は、日本人の間に深い感動を与えた。テレビ報道を見ていて胸を熱くした人も多いことと思う。そして、安倍首相の「和解の力」も世界平和に向けた力強いメッセージになった。これも多くの称賛を得た大演説であったと思う。

今、まさに火花を散らして戦っている国、地域もある。どうしたら戦火が消えるのだろうか、世界平和を切に望むところである。



海底に沈んでいる戦艦アリゾナ



戦艦アリゾナの一部が海上に見える



アリゾナ記念館の中で



アリゾナ記念館の壁



祈りの広場に刻まれた戦没者名